

平成30年度 予算のお知らせ

健康保険

経常収支で約5億1千万円の大幅な赤字予算となりました

● 予算編成の背景

日本は、世界に類を見ない超高齢社会に突入しています。平成28年度の医療費（概算）は41.3兆円となり、高齢化の進展や医療技術の進歩により、健保組合が負担する医療費は増大を続けています。

平成29年度に後期高齢者支援金が全面総報酬割に拡大されましたが、平成29年8月からは介護納付金についても総報酬割の段階的導入がスタート（2020年度に全面導入予定）し、比較的收入水準の高い被保険者を抱える健保組合等の負担増は際立つこととなりました。また、平成30年度は診療報酬・介護報酬の同時改定が行われ、診療報酬の改定率は、本体（薬価と医療材料を除く）が0.55%の引き上げとなり、健保組合の医療費および医療機関での窓口負担は増えることとなります。

国民皆保険制度を存続させるためには、負担の仕組みを超高齢社会にあった制度に変える必要があります。公平性、納得性の高い皆保険制度の実現に向けた制度改革が求められます。

● 予算の概要

当健保組合の平成30年度予算は、総額55億

2,577万円、実質的な収支状況を示す経常収支で5億1,101万円の赤字を計上する非常に厳しい編成となりました。

主な収入は、皆さまと事業主に納めていただく保険料で、48億1,183万円を見込んでいます。一方、主な支出は、皆さまの医療費に充てられる保険給付費24億7,065万円（前年度比1,330万円増）と、高齢者医療を支えるために高齢者医療制度へ納める納付金23億9,384万円（4,198万円増）となる見込みです。これら2つの支出だけで保険料収入を超えてしまう見通しです。収入の不足分は、前年度決算からの繰越金1億5,000万円および別途積立金等からの繰入金4億5,264万円で補填することとしました。

当健保組合では、引き続き事務経費の節減に努めるとともに、平成30年度から本格稼働の2期目を迎えるデータヘルス計画に基づいて、皆さま一人ひとりの健康に役立つ効果的な保健事業を実施してまいります。皆さまにおかれましては、年1回の健診受診と健診結果を活用しての健康管理に取り組んでいただくとともに、処方薬についてはジェネリック医薬品を選択するなど、医療費適正化にご協力くださいますようお願いいたします。

介護保険

健保組合では、40～64歳の被保険者（介護保険第2号被保険者）から介護保険料を国に代わって徴収し、国に納付しております。

平成30年度は、介護納付金4億7,041万円に対し、介護保険収入は4億6,586万円となる見込みです。収入の不足分は繰入金2,000万円で補填します。

収入

科目	予算額(千円)	介護保険第2号被保険者1人当たり額(円)
介護保険収入	465,856	97,053
繰入金	20,000	4,167
国庫補助金受入	1	-
雑収入	2	-
合計	485,859	101,221

支出

科目	予算額(千円)	介護保険第2号被保険者1人当たり額(円)
介護納付金	470,407	98,001
介護保険料還付金	1,306	272
積立金	14,146	2,947
合計	485,859	101,221

平成30年度 収入支出予算総額 55億2,576万8千円

※（ ）内は「被保険者1人当たり額」

